



2019 年度

10 月 園だより

社会福祉法人雲柱社
五日市保育園

夜になると虫の声が響き渡るようになりました。もみじや銀杏の葉も先端から少しずつ色づき始め、日々、秋の気配を感じます。日中はとても過ごしやすい季節ですが、朝夕は気温も下がり、冷え込んできました。大人も子どもも、体調を崩さないようにしたいですね。

保育園では10月5日（土）に五日市小学校の体育館をお借りして、運動会を行います。子どもたちもバルーンやダンス、リレーなど楽しみながら練習に取り組んでいます。どうぞ、お家の方も一緒に楽しんでいただけたらと思います。

運動会の練習を見に行くと、年中（すみれ）さんが年少（れんげ）さんのダンスを見ていました。ダンスが終わると「〇〇ちゃん、がんばってたね！」「〇〇ちゃんも上手だったよ！」と声をかけていました。次に年中さんがバルーンを始めると、「すごいね！！」「かっこいいね」と憧れのまなざしで見ている年少さんたち。こんなふうに誰かの頑張っている姿をみて、お互いを認め合える子どもたちは素敵だなと思いました。

毎年、練習ではしっかりできていたのに、当日は緊張してうまく出来ない子もいます。反対に練習では今一つ乗り気になれなかったけれど、当日は張り切って出来る子もいます。どんな姿を見せてくれるのかは、当日までわかりませんが、どちらも子どもたちの大切な育ちの一場面です。どうぞ温かく見守ってください。

ひとは ことばを つかって じぶんの きもちを ほかの ひとに つたえる。

ひとは ことばの おかげで ほかの ひとの きもちを じぶんの きもちのように かんじる。

ことばには いつも きもちが かかっている。

けれど きもちが あんまり はげしくなると ひとは それを ことばに できなくなることもある。

わらったり ないたり、ひとりぼっちで だまりこんだり、ぼうりよくを ふるったり…

そんなとき、ことばは こころのおくふかく かかっている。

（『にほんご』安野光雅・大岡信・谷川俊太郎・松居直 著 福音館書店より）

気持ちをうまく言葉にできなくなること…大人だってありますよね。まだ言葉も少ない子どもたちにとっては、もっと難しいことです。伝えたいのに上手く伝えられなくて、泣いたり怒ったり、叩いてしまったりすることもあります。そんな時、近くにいる大人が言葉にならない思いに気づき、くみ取ってあげることが大切です。自分の思いをきちんと受け止めてもらったことで、安心感を感じ、人と繋がることの嬉しさを体験していきます。私たち大人も、ただ自分の気持ちを聞いてほしいという時はあります。そんな時はいつでも私たちに声をかけてください。すぐに解決できないことはあっても、思いを聞いて一緒に考えさせていただければと思っています。

